

## 主よ、あなたは何を求めておられますか

そのうちに主が来られ、そばに立って、これまでと同じように、「サムエル。サムエル。」と呼ばれた。サムエルは、「お話してください。しもべは聞いております。」と申し上げた。(1サムエル3：10)

人生には、神の言葉を聞きたくてどうしようもない時が多々あります。私はだれなのか。あなたは、だれなのか。私は何をしたらいいのか。どこへ行けばいいのか。神の声を聞きたい理由はたいてい、私たちの差し迫った必要から来る場合が多く、神の明確な導きがその最も有効な解決策だと思うからです。しかし、サムエルの話では、神の声を聞くことに関して別の特徴が見られます。そこで応えられる必要が私たちのものではなく、神のものであるという点です。

どれほど頻繁に神が私たちの心を引っ張って、神に近づくように招いておられるように感じますか。それは完全な文章の形で語られませんが、霊的親密さをもってかすかな風が私たちの心を通り過ぎるように感じるとき、神が何かを語ろうとしておられると容易に察することができます。サムエルのように、私たちも神から呼ばれたと感じる時はいつも、神に注意を向けることができるような単純な応答の仕方を培う必要があるでしょう。「主よ。私はここにおります。あなたが呼んでくださったのを聞きました。お話してください。しもべは聞いております。あなたは私に何をなさりたいのですか。」サムエルにとって、神に聞くとは、神から自分の必要を得るというよりも、神の必要に応えるという意味合いが大きいようです。

私たちの名前を呼び、愛してくださっているお方の声を聞くことができますか。神が呼んでおられると感じるとき、単純に私たちは御前に出て、応答する機会を得ます。できるだけ素早く耳を傾け、注意を注ぎます。

「主よ。ここにおります。」これが、神に注意を向けながら聞いているサムエルの姿勢です。続いて、1サムエル3章19節にはこう書いてあります。「サムエルは成長した。主は彼とともにおられ、彼のことばを一つも地に落とされなかった。」これが、注意深く聞くという意味です。

### 質問：

- 1 時々、あなたを近くに引寄せさせるために神が呼んでおられると感じることがありますか。神はどのようにそれをなさいますか。
- 2 神の招きに対し、あなたはどのように応答、あるいは抵抗しますか。
- 3 もし、祈りの意図が単に「私に何を望んでおられますか」と神に聞くことだとすると、あなたの祈りはどのように変わりますか。

祈り：あなたに語られた神のことばが地に落ちた可能性があることを正直に認めてください。もっと注意深く、さらに素早く神の言葉に応答できるように、イエスに助けを求めてください。たとえ私たちが常に正しく聞くことができなくても、神との対話ができることを神に感謝してください。